

# 「和歌山の授業づくり 基礎・基本 3か条」の充実

## 1 本時の目標・学習課題を明確に板書する。

授業は、目標の達成を目指して児童生徒の実態に即して計画・実施されなくてはなりません。児童生徒がその目標や学習課題を把握し、主体的に学習を進めるため、**黒板に本時の目標や学習課題を児童生徒主体の言葉で書く必要**があります。

そうすることで、児童生徒の学習に向かう姿が変容し、毎時間の授業が充実したものとなり、学力向上が図れます。

## 2 児童生徒が自分の考えを書く時間を確保する。

自分の考えを書く活動を通して、「書く力」とともに「考える力」を育てます。学習する用語を使い、理由や根拠、方法や考え方などを表現する活動を行うことで、そのことごとについて深く考え、その考えを整理し、考える内容を明確にすることができます。

「何をどのように書かせるか」「書いた内容をどう評価するか」という視点を指導者がしっかりともち、指導することで、児童生徒の思考力・表現力の向上が図れます。

## 3 授業のまとめ・ふり返りの時間を確保する。

各授業は、児童生徒が目標の達成・学習課題の解決をめざして行われるべきものです。そのため、授業の終末では、児童生徒が「**目標の達成ができたのか**」「**学習課題は解決できたのか**」「**次なる課題は何なのか**」ということについて、**まとめ、ふり返る時間**が大切です。

そうすることで、児童生徒が学習の評価を行い、成果を自覚する力の向上が図れます。

「主体的・対話的で深い学び」を実現するために

たとえば

- 導入場面で、学習に対する興味・関心を引き出したうえで、本時の目標や学習課題を板書する。
- 自分の考えや、わかったことなどをノートに書くように指導する。
- 自分の考えを書いたものをもとに、学級やグループで話し合い、自分の考えを深めたり、広げたりする学習活動を取り入れる。
- 問題解決的な学習活動を通じて、わかったことや、実生活に生かせることなどをふり返る活動を取り入れる。

## カリキュラム・マネジメントの充実

- ①学校の教育目標を踏まえた**教科横断的な視点**
- ②調査や各種データに基づいた**PDCAサイクル**の確立
- ③教育活動に必要な**人的・物的資源**等の効果的な活用

新学習指導要領の全面实施等を踏まえて実践